

No.839 October 2026

ASAHI MACHI

Public Relations

① 広報 あさひまち

秋風に揺れる

2026

10

No. 839



安永圭佑代表取締役社長（写真左）



プチプチ株式会社（東京都千代田区）と朝日町は、「災害時における物資の優先供給に関する協定」を締結し、9月25日、朝日町役場を会場として、プチプチ株式会社・安永圭佑代表取締役社長と鈴木浩幸町長

が協定書を交わしました。

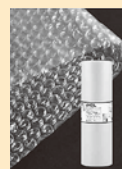
この協定は、災害時に避難所で使用する物資を優先的に供給いただくことで、避難所の生活環境の改善と健康被害の防止を図ることを目的としたものです。支援いただける物資は下記の4種類で、有事の際には、町の要請により同社から物資を送付いただくこととなります。

同社は「空気まつり」に2010年から毎年参加しており、「空気」を通じて町と15年以上のつながりを持っています。そうしたきっかけから、東北地方の自治体としては初となる災害時協定の締結に至りました。

式では、町長が「各地で地震や水害など、大きな災害が続いている。町民の安心につながる協定となった」とあいさつし、安永代表は「今回の協定には大きな意義を感じる。これからも命を守るという責務を果たしたい」と述べました。

プチプチ株式会社と
「災害時における物資の優先供給に関する協定」
を締結しました

支援いただける物資



プチプチ®

クッション性・保温性があり、さまざまな用途に活用できます。



PLA-BED®

組み立て式で、コンパクトにして持ち運びが可能な簡易プラベッド。



パーティション

避難所などでの仕切り板や目隠し板として利用できます。



ブース

避難所などにおいて、簡易的なプライベート空間が作れます。

寄付採納報告



協定締結式の同日、プチプチ株式会社より企業版ふるさと納税としていただいた100万円の寄付に対する感謝状の贈呈を行いました。同社より寄付をいただくのは、今回で5年連続となります。

いただいた寄付金は、エコミュージアム推進費、豊かな森林維持整備事業、空気まつり、再生可能エネルギー導入促進事業に活用させていただきます。

目次 ◎ CONTENTS

- P2 町長歳時記
- P3 Pick Up News
プチプチ株式会社と災害時協定を締結しました
- P4 特集
スポーツの力で町に活力を
～「官民連携のまちづくり」のこれまでとこれから～
- P8 町政スポット
・モンテディオ山形 O-60 コミュニティ
・おいしく備える「防災ごはん」講座 ほか
- P9 第47回 朝日町ワインまつり
- P10 令和7年度決算
- P14 まちレポ
・大谷小学校 PTA 学年行事
・第1回カラオケまつり ほか
- P16 我ら地域活性化起業人
- P17 それいけ協力隊とウサビ、町立図書館コーナー
- P18 健康あさひるばんざい、朝日町の神社と御堂
- P19 戸籍のまど、となりのリンゴさん
大谷地区で「地域食堂」開催
- P20 ドキドキ探検隊 カヌー体験

表紙の写真



10月2日に一本松公園（能中）から撮影した「榎平の棚田」の様子です。公園東屋前の道路脇に咲くコスモスのピンク色と、黄金色に実った稲穂。鮮やかな2つの色が秋風に揺れる様子が美しく、夢中でシャッターを切りました。

秋のごく短い期間のみ楽しむことができるこの風景。来年もまた見たいと思う光景です。

町長歳時記 (234)

『自由』への渴望と挑戦 ～思いが決意となり 決意が行動となる～

私たちは『自由』を渴望する。命がけでその『自由』を手に入れようとする。それが「人間」であります。

人類の歴史は、自由への渴望と剥奪の繰り返しでありました。そしてそれは、自由獲得への執念の挑戦でもありました。

現代の日本人は『自由』を「空気」のような存在として感じ、当たり前そこに在るものとして享受しています。そしてその「ありがたさ」に目を向けることすらなくなっているのではないのでしょうか。

もしも私たちの『自由』が何者かによって奪われ、拘束され、隷属される立場になった時、激しい怒りと憤りを感じるものとなるでしょう。しかもそれは取り返しのつかない代償として重い楔につながれたものとなります。永遠に戻ることのない暗闇に暮らす蝙蝠のように、じめじめした洞窟の中で這いつくばるように暮らし続けなければなりません。

一人の人間が、「自由剥奪」という理不尽さに立ち上がろうとする時、強大な権力は、いとも簡単に、この非力な反抗を押し潰してしまいます。しかしその時立ち上がった一片の闘志が、灼熱の大地に根を下ろした雑草のように、しだいに強く深く根を張り、それが強固な意志として、同胞の心に深く根強く沁み渡って行くのです。これが『自由』への渴望の人類の歴史であります。

決して失われることのない、『自由』への渴望は、私たち人類が生きて行くために必要な、欠くべからざるものとして、人間のDNAに深く刻み込まれているのです。

『自由』への人間の思いが決意となり、その決意が行動となる。この挑戦が続く限り、そこにどんな困難が立ちかはかろうとも、歴史は人間が生きて行くべき正しい方向に導いて行くものだ、と確信しております。

朝日町長 鈴木浩幸



第3期 まちづくり連携協定締結式

9月30日に創遊館で行われた締結式には、鈴木浩幸町長、伊藤耕平副町長をはじめとした町関係者のほか、ミズノから大森邦弘執行役員、木村陽平北日本営業部長、池野季紀営業開発部長、川久保浩之営業開発部担当課長が出席しました。

式では、第1期（平成28～令和2年）、第2期（令和3～7年）で実施した連携事業を振り返りつつ、第3期（令和8～12年）の目標のポイントを紹介。町とミズノ、お互いの目指す姿の実現に向けて、気持ちを新たにす式となりました。

継続してきた10年間の歴史は何ものにも代えがたい、重みのある実績。今後もミズノ株式会社様が持つ多くのノウハウや豊かな知見をお借りしながら、民間企業の技術を地方のまちづくりに活かす先進的な事例となれるよう、一緒に取り組んでいきたい。

朝日町
鈴木 浩幸 町長



第3期中には「あさひ未来学園」が建設される。新たなインフラが完成した際にも、より多様なノウハウを活用してもらい、町民の健康や子どもたちのスポーツの機会を支えたい。「スポーツの力を通じて社会に貢献する」という理念のもと、皆さんが満足できるようなサービスを提供していきたい。

ミズノ株式会社
大森 邦弘 執行役員



さらなる発展を目指して
官民連携の取り組みがスタートして10年。健康づくりやスポーツ分野にとどまらず、農業従事者や地域団体とのコラボなど、さまざまな分野でミズノの持つノウハウを活用しながら事業を進めてきました。これまでは主に「歩く」という人間の基本的な動作の見直しを通じた町民の健康づくりや、町とミズノブランドの発信などに注力してきました。第3期でもそれらを継続しつつ、新たな視点に立った事業に取り組んでいきます。

次ページでは第3期協定のポイントなどを紹介します。



特集 朝日町 × ミズノ株式会社



スポーツの力で町に活力を

～「官民連携のまちづくり」のこれまでとこれから～

平成28年から総合的なまちづくりで連携してきた町とミズノ株式会社。以来、2期・10年間（1期5カ年）にわたってさまざまな事業を展開してきました。そして本年9月には第3期目となるまちづくり連携協定が締結され、さらなる連携の強化が期待されます。

今月号では町とミズノのこれまでの取り組みを振り返るとともに、町民の豊かな生活に向けて、どのように協力していくのかを特集します。

連携協定のはじまり

町とミズノ株式会社（以下「ミズノ」と表記）のつながりは、平成26年度から平成28年度にかけて行われた、町のブランド化推進の取り組みがきっかけとなっています。

町では、急速に進行する高齢化に伴う社会保障費の増加や医療費の抑制などの課題に加え、健康寿命の延伸や生きがいづくりなどへの取り組み強化が求められていました。

一方ミズノでは、少子高齢化に伴うスポーツ人口の減少を見据え、これまで培ってきたノウハウを日常生活支援や健康づくりといった他分野へ活用できないか模索していました。

そこでお互いのニーズが合致したことを確認し、平成28年3月、「総合的なまちづくり」で連携協定を締結し、共通した課題に連携して取り組むことを発表しました。

これまでの主な連携事業（抜粋）

(年)	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
・「まちづくり連携協定」締結 第1期協定が開始	・町とミズノのコラボロゴを活用したウェアでブランド発信 ・朝日町スポーツ健康フェスティバル with ミズノ を開催 ・柔道日本代表監督・井上康生氏が記念講演	・朝日町ビクトリークリニック開催。元プロ野球選手の仁志敏久氏、フィジカルトレーナーの川島浩史氏が来町	・小学生対象の「走り方教室」を開催（以降、継続開催） ・町民グラウンドゴルフ大会を共催し、「ミズノ杯」とする	・ミズノビクトリークリニックとして、元バレーボール女子日本代表監督の中田久美氏が来町 ・小学生対象の「泳ぎ方教室」を開催（以降、継続開催）	・町内若手農家と共同で「農作業用手首サポーター」を開発 ・ミズノと前田沢区が共同で、地区内にウォーキングコースを設定	・第2期連携協定締結 ・レインウェアに焦点を当て、若手農家とワークショップを開催 ・ミズノ歩行測定会開催	・ミズノビクトリークリニック・生涯学習推進大会にて、長野五輪スキージャンプ金メダリストの船木和喜氏が来町・講演 ・歩数計アプリ「arukun」(あるくこ)を活用したイベント	・ASAHIウォーキングチャレンジ開催（以降、継続開催） ・黒田恵美子氏を講師に迎えた「ウォーキング教室」を開催（以降、継続開催）	・生涯学習推進大会にて、長野五輪スピードスケート金メダリストの清水宏保氏が記念講演 ・生涯学習推進大会にて、アテネ五輪男子体操金メダリストの塚原直也氏が記念講演	・ミズノビクトリークリニック・生涯学習推進大会にて、元読売ジャイアンツの篠塚和典氏が来町・講演	・第3期連携協定締結



第3期（2026年～2030年）連携協定のポイント 朝日町とミズノが目指す姿（ビジョン）

① 義務教育学校「あさひ未来学園」の開校を契機とした「新たなまちづくり」

町が取り組むこと	ミズノが取り組むこと
子どもたちに限らず、老若男女が交流し、さまざまなスポーツを楽しむ機会の創出	スポーツに親しむ場や機会などの提案 独自のツールやサービスなどを活用した運動プログラムの推奨
先進事例（ニュースポーツへの参加など）になり得る取り組みへのチャレンジ	進事例模索に係るニーズ調査や取り組みの実践

② 子どもたちがスポーツをし続けられる「持続可能な環境づくり」

町が取り組むこと	ミズノが取り組むこと
子どもたちの体力、技術向上を図る実技指導の強化	指導者への定期的なスキルアップ研修の実施
プロアスリート等との実技交流および講演会の開催（シビックプライド*の向上）	プロアスリート等との交流機会の提供

③ 健康・スポーツ事業を起点とした「広域（交流）連携」

町が取り組むこと	ミズノが取り組むこと
広域的な地域連携、友好都市などとのスポーツ交流の検討・調整	広域的なスポーツ交流への支援、提案
町内事業者などとミズノのつながりを創出し、その交流を通して町内産業の活性化を図る	町内事業所などとの積極的な交流、連携事業の展開

*シビックプライド
郷土愛など、単なる愛着以上に「この町をよくするために自分自身が関わっている」という当事者意識（自負心）



ASAHI ウォーキングチャレンジ 2026 ウォーキングイベント開催中

歩数計アプリ「aruku&（あるくと）」を活用したウォーキングイベント“ASAHI ウォーキングチャレンジ 2026 1st”は、町内在住、もしくは町内勤務の方ならどなたでもエントリーできます。目標歩数を達成した方には抽選で、豪華景品が当たります。11月には2ndを開催予定。ぜひご参加ください。

- 期 間 1st: 10月1日（木）～31日（土）／2nd: 11月1日（日）～30日（月）
- 要 件 町内在住・在勤の18歳以上の方
- 参加方法 ウォーキングアプリ aruku&（あるくと）をダウンロードしてご参加ください。



◀アプリのダウンロードはこちら



◀イベントの詳細は町公式ホームページへ



ミズノ株式会社
営業開発部 担当課長
かわくぼ ひろゆき
川久保 浩之 さん

これまで10年間にわたってさまざまな連携事業を実施してきたミズノ株式会社と朝日町。その活動をミズノの担当として支えてきたのが、現営業開発部担当課長の川久保浩之さんです。

川久保さんに、これまでの取り組みの中で感じた町民意識の変化や、今後のビジョンなどについて伺いました。

高まる健康への熱量

朝日町と継続して関わってきた中で、「健康づくり」に対する町民の皆さんの意識は間違いなく高まっていると感じます。

特に令和5年から開始した「ウォーキング教室」参加者の熱量は大きく、毎回多くの方にご参加いただいています。講師の黒田恵美子先生も、「皆さんとても真面目で熱心。教える側もうれしくなる」と話してくれます。第2期は「歩く」という動作に注目した事業を多く実施したので、ねらいどおりの反応が得られたと思います。教室は主に大人が対象でしたので、今後は子どもたちにも楽しく運動してもらえようという企画に取り組んでいきたいですね。

スポーツを続けられる環境を整える

全国的に少子化が進み、団体で行うチームスポーツを子どもたちが続けられないという状況が増えていきます。朝日町も同様で、やりたいスポーツを続けさせてあげたいと思います。朝日町も同様で、やりたいスポーツを続けさせてあげたいと思います。朝日町も同様で、やりたいスポーツを続けさせてあげたいと思います。

そこで我々ミズノがつなぎ役となりながら、近隣市町も含めて広域的な連携について考えるなど、継続性が保てるような環境を作っていくことが大事になると考えています。子どもたちが健康に成長できるようなプログラムを提案・提供することがミズノの命題だと思っています。



ウォーキング教室の様子（6月26日）。今年度も全5回での開催を予定しており、初日となったこの日は約40人が参加して自身の歩き方を確認しました

新たなスポーツの確立

また、少人数でもできる新たなスポーツも増えています。例えば「Baseball 5（ベースボールファイブ）」という5人1チームで行う野球のような競技。男女混合チームであることが必須で、男性・女性のみスポーツよりもチームが非常に組みやすいです。そして室内でもできるので、冬場も競技を続けられます。日本代表チームもあり、世界大会も開催されています。

このようにニュースポーツとして確立され、上を目指せるような競技には可能性があります。我々にはそういった種目の紹介や、体験会の開催など、実際に競技に触れる場をつくることができます。この町がニュースポーツの先進地・中心地として頑

健康は「自分ごと」

ミズノは「スポーツ会社」ではありませんが、常に念頭にあるのは極めて普遍的な、人々の「健康」や「幸せ（Well-being）」のことで、それらはどんな人にとっても生きていくうえで絶対に必要で、関係のない人は一人もいないはずで

町とミズノは共同でさまざまな事業を実施していますが、単純に「このスポーツ（運動）が好きだ／嫌いだ」「私には関係ない」と思うのではなく、健康づくりを「自分ごと」と捉え、多くの教室やイベントにぜひ参加していただきたいです。

町民の皆さんに「運動は自分への投資」という意識が根付き、そして新しいことにどんどん挑戦してもらえるような活動を実施し、朝日町がより元気な町となるよう、これからも尽力していきたいです。

張れる種目を提案し、皆さんと話し合いながら実践の検討をしていきたい。そして義務教育学校「あさひ未来学園」が完成する頃には町の中にその競技の土台ができていて、教育カリキュラムにも取り入れられるような基盤を作ることが、次の5年間の大きな柱の一つだと考えています。



第47回 朝日町ワインまつり 9月23日(水・祝)

創遊館の芝生広場を会場に、秋の名物イベント“朝日町ワインまつり”が今年も盛大に開催され、約900人の来場者が町自慢のワインを堪能しました。

まつりのために用意されたワインは約1,000本。来場者は入場後、チケットと引き換えに赤・白・ロゼの中から好みのワインを選んで乾杯。快晴のもと、県産牛(幸生牛)のバーベキューとともに冷たいワインを存分に味わい、会場は終始歓声と笑顔に包まれていました。

おいしく備える「防災ごはん」講座

健康福祉課 ☎67-2116



9月25日、役場調理室などを会場に、災害時に役立つ調理法などの体験会が行われ、町民や町食生活改善推進員ら13人が参加しました。

健康福祉課・茂木彩英香管理栄養士の指導の下、乾物や缶詰を使った調理、パック入りのアルファ化米の試食とそのアレンジ、そしてポリ袋を使用した湯煎によるバッククッキングなど、災害時でも衛生的にバランスの取れた食事を摂取できる調理を実践。参加者は、「想像していたよりもしっかりと味がついていて、とても食べやすい。災害に備え、作り方を忘れないようにしたい」と話しました。

朝日町消防団 消防訓練会

危機管理対策室 ☎67-2111



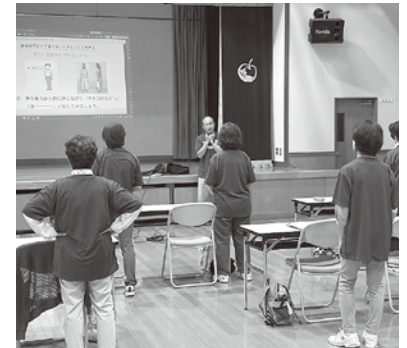
10月4日、創遊館駐車場を会場に、町消防団の車両操作と放水動作を確認する訓練会が実施されました。この訓練

会は、有事の際に団員の安全を確保しつつ、確実に放水を開始するため、各番員の動き方を確認することを目的に行われたものです。

当日はポンプ車、軽・積載車がそれぞれ部ごとに放水を行い、それに対して消防団幹部が各番員に講評するという形で進められました。この日に向けて日々の訓練を繰り返してきた団員の皆さん。一連の訓練を通じ、スキルアップが図られる機会となりました。

モンテディオ山形O-60コミュニティ

政策推進課 ☎67-2112



町とモンテディオ山形による、声に着目した健康教室「O-60コミュニティ(60歳以上の対象の声磨き教室)」が、9月15日に北部公民館、10月8日に役

場ホールで開催されました。声磨きインストラクターの間地謙太さん、モンテディオ山形クラブコミュニティケータの岡崎建哉さんを講師に、町内在住の約30人が参加。準備運動を兼ねた軽運動や、元気な声を出すためのボイストレーニングを行いました。

参加者は、10月21日に天童市で行われる北海道コンサドーレ札幌との試合を観戦し、そこでこれまでの練習の成果を応援で披露します。

町青少年健全育成町民大会

教育文化課 ☎67-2118



9月27日、創遊館を会場に朝日町青少年健全育成町民大会が開催されました。「育てよう生きる力」をテーマとして、たくましく心豊かなあさひっ

子を育むために毎年開催されているこの大会。今回は、約200人の町民や教育関係者などが参加しました。

大会では、ドキドキ探検隊長の鈴木直幸さん(大谷第五)が事例発表。「ちよつと待つて!」のかけ声から始まった地区の人たちと公民館の連携と協働」と題し、探検隊発足の経緯や活動の課題などを発表。子どもたちの野外活動を長年支えてきた活動に、参加者は深くうなずきながら耳を傾けていました。

令和7年度の主要事業



義務教育学校 創設事業 2億6,841万円

義務教育学校建設予定地の用地取得および次年度以降の整備に係る設計などを実施しました。



Asahi自然観コテージ村 再整備事業 4億5,802万円

Asahi自然観コテージ村再整備事業として9棟の新築、2棟の改修、4棟の解体を行いました。



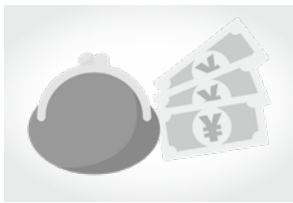
町道大町西原線 歩道設置工事 8,070万円

令和4年度から行っていた大町地区と西原地区を結ぶ町道大町西原線の拡幅工事が完了しました。



古民家改修事業 3,269万円

インバウンド受け入れや交流人口拡大を目的に、町保有古民家を改修し、魅力向上を図りました。



物価高対応 子育て応援手当 1,142万円

物価高騰対策として、子ども一人あたり2万円の応援手当を支給しました。



創造館舞台照明 操作卓等改修 8,696万円

ホール照明の操作装置が老朽化し、部品なども生産停止されているため、装置の更新を実施しました。



五百川橋 本復旧工事 4,191万円

橋梁長寿命化修繕計画に基づき、町道西町西船渡線五百川橋本復旧工事を行いました。



災害復旧事業 4億6,296万円

令和7年4月の融雪災害で被災した町道立木ブナ峠線の復旧に向けた測量・設計などを実施しました。

特別会計

特別会計の各会計については、いずれも黒字を確保でき、良好な財政状況を維持できました。

(単位：万円)

	歳入	歳出	差引
国民健康保険	8億5,543	8億3,933	1,610
介護保険	10億7,606	10億1,249	6,357
後期高齢者医療	1億2,077	1億1,978	99

企業会計

病院事業

病院事業会計の収益的収支（税抜）は、医業収益の5億890万円に、一般会計からの繰入金を含む医業外収益等3億2,487万円を加えた8億3,816万円を収入として計上。支出に8億6,303万円を計上し、2,487万円が当年度の経常損失となりました。

資本的収支（税込）は、一般会計出資金や企業債4,266万円を収入として計上、給湯ボイラー等更新工事実施設計や医療機器購入、企業債償還元金として9,128万円を支出に計上しました。

集落排水事業

収益的収支（税抜）は、302万円の純利益となりました。

資本的収支（税込）は一般会計からの出資金などの収入として615万円、マンホール蓋交換工事に要する費用および企業債償還元金として836万円を支出に計上しました。

※集排水事業は令和6年度から公営企業会計化しました。

水道事業

収益的収支（税抜）は、1,008万円の純利益となりました。

資本的収支（税込）は、一般会計からの負担金や地方債などの収入として9,350万円、豊龍配水池新設工事や消火栓設置工事など、水道施設の更新に要する費用および企業債償還元金として2億684万円を支出に計上しました。

(単位：万円)

	収入	支出	差引
病院事業	8億3,816	8億6,303	△2,487
集排水事業	615	836	△221
水道事業	1億4,709	1億3,701	1,008
	9,350	2億684	△1億1,334

※病院事業・集排水事業・水道事業の資本的収支の不足額は、過年度分損益勘定留保資金等で補てんしています。

※全会計とも、実質黒字または資金剰余となっています。

※企業会計については、収益的収支は税抜き、資本的収支については税込みで表記しています。

令和7年度 決算

町の令和7年度決算が、町議会9月定例会で認定されました。

町民の皆さんから納めていただいた税金や、国・県からの支出金がどのように使われたのか、町の財政状況がどうなっているのか、その概要をお知らせします。

一般会計歳入

歳入総額は、74億1,206万円となり、前年度から7億3,148万円（10.9%）の増となりました。

国庫支出金は8億1,256万円で前年度比2億2,061万円（37.3%）の増。Asahi自然観コテージ村の再整備事業や、町有古民家の設備改修事業などに「新しい地方経済・生活環境創生交付金」を活用したことが主な要因となっています。また令和7年度は、町税が3,094万円の増収となりました。

さらに、歳入で最も大きな割合の地方交付税についても、1億7,731万円（5.7%）の増となりました。

一般会計歳出

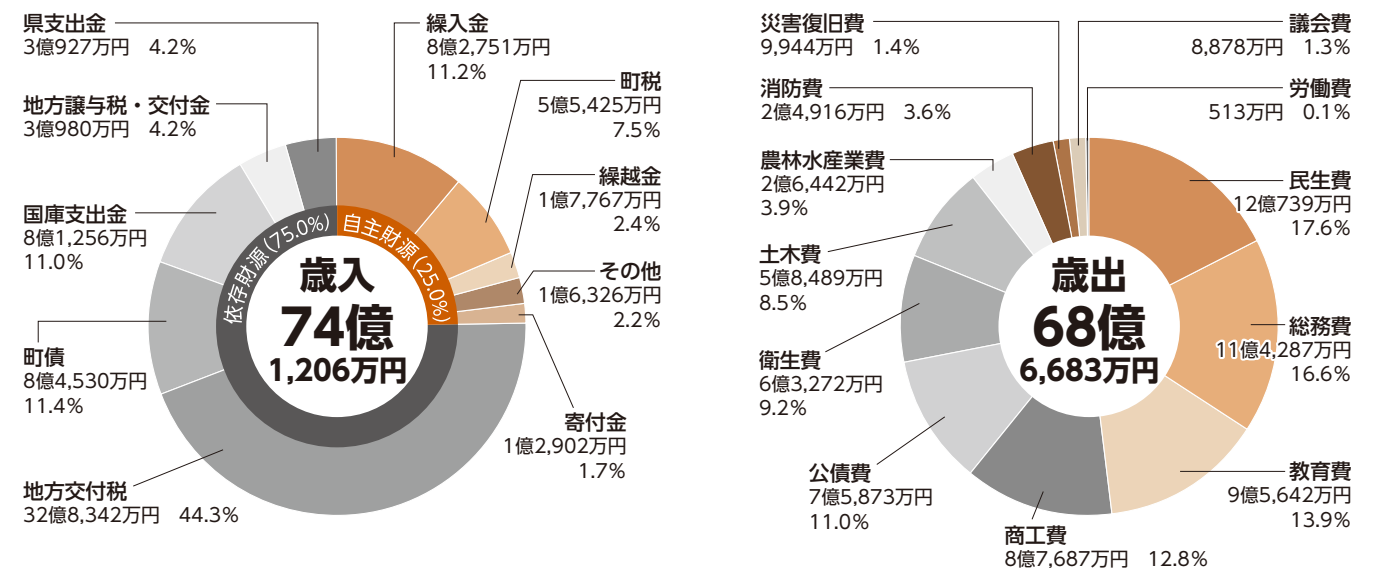
歳出総額は、68億6,683万円となり、前年度から5億7,391万円（9.1%）の増となりました。

Asahi自然観コテージ村の再整備事業（2年目）を計上した商工費が前年度比4億9,783万円の増、さらに義務教育学校建設に伴う用地取得や、用地造成に向けた測量設計を計上した教育費が前年度比3億8,478万円の増となっております。

一方で、総務費が役場庁舎長寿命化改修事業の完了により2億8,860万円の減、土木費が緊急自然災害防止対策事業の完了により1億2,500万円の減、議会費が議会中継システムの整備完了により2,424万円の減と、それぞれ大きな減となりました。

歳入歳出差引額

歳入歳出差引額は5億4,523万円。このうち、事業が終わらないため翌年度に繰り越して使うお金3,620万円を差し引き、さらに財政調整基金に3億4,005万円を積み立てた残額1億6,903万円を令和8年度へ繰り越しました。



※端数処理の関係で合計額等が一致しない場合があります。

用語の説明

歳入 ▶ **地方交付税**…全ての市町村で一定水準の行政サービスが受けられるように、国が交付するお金 **自主財源**…町税など町が自主的に確保できるお金 **依存財源**…町が自主的に確保できないお金 **国・県支出金**…特定事業のために、国や県から交付されるお金 **地方譲与税**…国が税金として徴収し、市町村へ譲与されるお金 **町債**…事業（主に建設業）を行うために、国や銀行から借り入れるお金 **繰入金**…基金（貯金）からの取崩し金

歳出 ▶ **総務費**…交通・定住対策、自治会の活動、選挙、災害対策などに使われるお金 **民生費**…子育て支援・高齢者福祉・生活保護など、主に福祉のために使われるお金 **公債費**…町が借り入れた地方債の元利償還などのお金 **衛生費**…予防接種や健診などの健康増進、ごみ処理などに使われるお金。病院事業への補助も含まれる

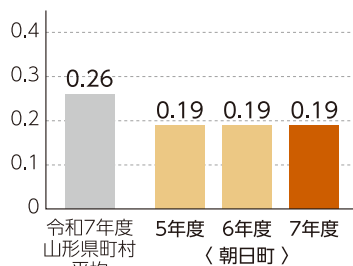
財政指標で見る町の財政状況

町の財政状況は健全化判断比率*をはじめとしたさまざまな指標により客観的に分析することができます。こうした指標を過去3年間の推移や県内町村との比較で分析します。

😊 … 良い
😞 … 良くない

■ 財政力指数 (自前の収入でやりくりできるか)

他自治体と比較して、当町は必要な経費を自主財源で賄える割合が低いことが分かります。町民税や固定資産税などの町税収入が少ないことが主な要因です。

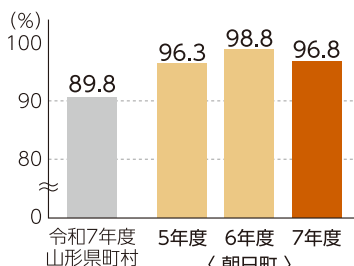


自治体経営に必要なお金を実際の収入で割った値(3力年の平均値)で、数値が大きいほど余裕がある。



■ 経常収支比率 (自由に使えるお金があるか)

昨年度から大きく改善しました。自由に使えるお金として算定される地方交付税の交付額が昨年と比べて多かったことが主な要因です。

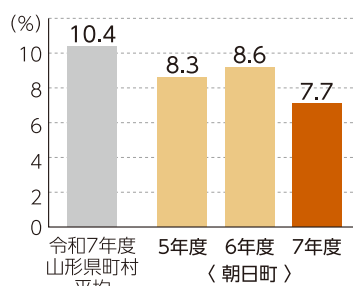


毎年度ある収入に対して、必ず行う支出の割合を示したもの。数値が低いほど柔軟に事業に対応できる。



■ 実質公債費比率 (借金返済に窮していないか)

大きな返済が終了したことにより、昨年度比で減少しました。県平均と比較しても低い数値で推移しており、依然として良好な水準を維持しています。返済費用の一部が地方交付税に算入される制度を有効活用しているためです。

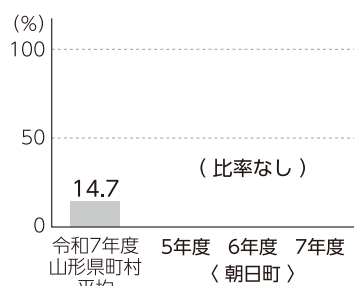


一般会計の公債費(借金返済費用)が重すぎないかを見る指標。3力年の平均値で算定。数値が低いほど良好。



■ 将来負担比率 (将来世代にツケを先延ばししていないか)

前年度に続き、比率はありません。借金などの将来負担額よりも貯金や将来地方交付税として算入が見込まれる金額の方が多いためです。



一般会計の町債(借金)や、将来支払う可能性のある他会計負担金の程度を指標化したもの。数値が低いほど良好。



*健全化判断比率 … 実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率の4指標の総称。公営企業の経営健全度を表す資金不足比率とともに、毎年議会への報告と公表が義務付けられています。健全化判断比率のうち、実質赤字比率、連結実質赤字比率については県内全ての市町村で比率がありません。

まとめ 今後の取り組み

実質公債費比率、将来負担比率は健全段階を維持しているものの、近年の大型事業により町債(借金)残高が増えています。それに伴って公債費(借金返済費用)が増え、経常収支比率は依然高い水準となっています。

今後も、大型事業として観光施設や義務教育学校の建設に取り組んでおり、公債費が増額となります。その実施に当たっては、各種基金の有効活用などで町債発行を抑制しながら健全財政の維持に努めていきます。

町の台所事情 (借金と貯金)

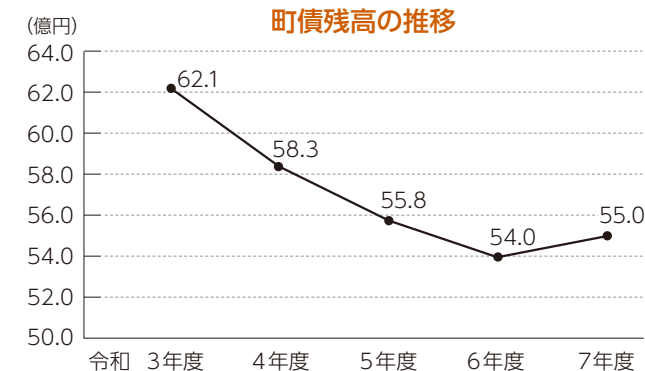
町も一般家庭と同様、大きな事業を行うときは国や民間の金融機関などからお金を借りています。また、将来の支出に向けた蓄えや寄付金を原資とした貯金もあります。両者の5年間の推移、令和7年度の状況をお知らせします。

■ 町債残高 (町の借金) ～令和7年度末の残高は約55.0億円。前年度から1.0億円増加～

令和元年度決算以降、6年ぶりに町債残高が増加しました。発行額(8.5億円)が償還額(7.6億円)を大きく上回ったためです。

町債を発行して実施した令和7年度の主な事業は、義務教育学校創設事業(1億8,500万円)、Asahi自然観コテージ村再整備事業(2億1,440万円)、創遊館舞台照明操作卓等改修事業(8,690万円)など。

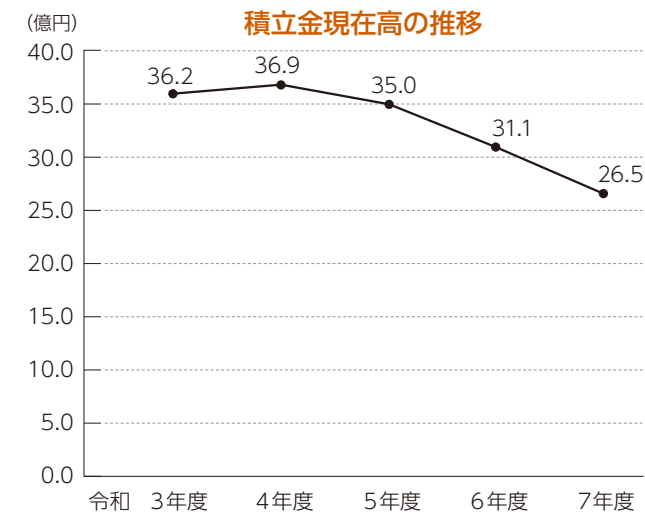
※()内は町債発行額



■ 積立金残高 (町の貯金) ～令和7年度末の残高は約26.5億円。前年度から4.6億円減少～

前年度から4.6億円の減となりました。主にあさひ未来学園建設に向けた用地買収およびAsahi自然観コテージ村再整備事業に活用するために、例年よりも多い金額を財政調整基金、町有施設整備・整備基金から取り崩したことが主な要因です。

取崩額の総額は8.4億円。Asahi自然観コテージ村再整備事業やりんご温泉施設改修、古民家改修など、老朽化が進む施設の修繕・改修に町有施設整備・管理基金を取り崩したほか、町道立木ブナ峠線の災害復旧に向けた測量、自治体システム標準化対応には財政調整基金などを、学校給食費無償化事業および空気神社のライトアップの補助金などには日本一りんごのふるさとづくり基金を活用しました。



■ 主な積立金の状況 (令和7年度)

(単位: 万円) ※端数処理の関係で合計額等が一致しない場合があります。

基金名	6年度末残高	7年度積立額	7年度取崩額	取崩額の主な充当事業等	7年度末残高
財政調整基金	10億1,724	2億1,175	4億6,247	一般会計の財源調整	7億6,652
減債基金	1億5,607	930	2,188	特定の借入金(借金)の返済費用	1億4,349
町有施設整備・管理基金	9億9,454	256	1億7,920	りんご温泉施設改修、Asahi自然観コテージ村整備事業等	8億1,790
日本一りんごのふるさとづくり基金	1億624	1億3,168	1億4,000	給食費無償化、空き家解体補助、未満児家庭保育応援金等	9,792
その他	8億3,426	3,439	4,939		8億1,926
合計	31億835	3億8,968	8億5,294		26億4,509



今年 100 歳になられた菅井きよさん（沼向）

9/16 24 今年 9 人の方へ贈呈 令和 8 年度 百歳高齢者表彰

今年度で 100 歳を迎える町内 9 人の方に、内閣総理大臣からのお祝い状と記念品が贈呈され、鈴木浩幸町長よりその伝達が行われました。

今回伝達を受けた菅井きよさん（沼向）は、「こんなに立派な賞をいただけてうれしい」と話し、元気の秘訣を伺うと「朝晩の軽運動や庭のお手入れを毎日続けている。また、ほぼ毎回ぼかぼかサロンに通い、体を動かしていることが健康につながっていると思う」とにこやかに教えてくれました。



「語りの会つむぎ」の皆さんと▶



9/17 笑って動いて、いつまでも元気に 令和 8 年度第 1 回 高砂大学

西部地区の高齢者を対象に、生きがいづくりと生涯学習を目的とする「高砂大学」が開講しました。今年の学生は 16 人で、今回はそのうち 10 人が参加しました。

講義ではまず「語りの会つむぎ」の皆さんが民話劇や踊りのステージを披露。「面白くて、もっと見ていたかった」とみんなが笑顔になったところで、続いて町保健師による体力測定などの健康教室が行われました。参加者は血圧や歩く力などを測定しながら、自身の身体の状態を確認していました。



9/12 地域で採れた食材を使っておいしく調理 大谷小学校 PTA 学年行事

北部公民館を会場に、大谷小学校 3・4 年生の PTA 学年行事として、地域おこし協力隊の工藤香織隊員を講師に招いた料理教室が開催されました。

参加者全員で協力しながら、大谷地区で栽培されたりんごを使ったカレーと、講師から生地のこね方のコツを教わりながら、チーズナン作りに挑戦しました。料理の完成後は親子でテーブルを囲んで実食。ナンから伸びるチーズに驚く声上がる中、にぎやかに食卓を囲みました。

9/12 歌って飲んで、にぎやかに 第 1 回カラオケまつり

常盤公民館を会場に、スナック詩（常盤）が主催する「カラオケまつり」が開催されました。スナック詩に通う常連客の提案で企画されたもので、180 人以上が来場しました。

当日のスタッフや出店での販売などは、お店の常連さんたちが協力。参加者によるカラオケはもちろん、津軽三味線奏者や民謡歌手、さらには朝日町踊りの会によるステージ、そして花火の打ち上げなど、さまざまな催しと仕掛けが準備され、訪れた人々は談笑しながらまつりを楽しんでいました。



◀旧十一面観音堂（水口）には、最上軍が一夜泊まったという伝承が残る



9/19 450 年前の歴史を感じて 五百川合戦ゆかりの地をめぐる

町の歴史を学ぶ「朝日町ふるさと歴史教室」として、最上義光が八ツ沼城・鳥屋ヶ森城を攻めたという五百川合戦ゆかりの地をめぐる現地見学会が行われ、10 人が参加しました。

宮本建一さん（エコミュージアム案内人の会 / 西船渡）、齋藤隆さん（町郷土史研究会 / 本町）らの案内で、八ツ沼城主・原甲斐守忠重の墓がある若宮寺や、戦で落城した八ツ沼城址などを訪ねました。参加者は「普段何気なく見ている場所にも歴史の跡があり、とても面白かった」と話しました。



9/13 有事の際の対応を学ぶ 八ツ沼区で避難訓練を実施

災害発生時の対応を考える機会として、八ツ沼区で避難訓練・防災教室が実施され、区民 38 人が参加しました。

役場危機管理対策室の職員による防災講話の後、消防朝日分署の職員を講師として、AED や消火器の正しい使い方と心肺蘇生法を学びました。区民同士で緊張感をもって訓練に取り組んだ参加者は「心臓マッサージは思った以上の力が必要と分かり、疲れたが勉強になった。最近は大雨も多く、防災意識をより高められた」と振り返りました。

▶りんごを釣って、しばりたてのジュースを作るブースも



10/4 11 周年を祝い、盛大にぎわう 道の駅あさひまち 創業祭

平成 27 年 10 月 1 日にオープンした道の駅あさひまち「りんごの森」の開業 11 周年を記念した創業祭が行われました。

商品のセール販売以外にも、朝日町観光協会による町の名物やウサヒのグッズが入ったガチャガチャの設置や、駐車場奥にある芝生の「ごろごろ広場」を会場にした「ごろごろマルシェ」の開催など、楽しい企画が盛りだくさん。「SNS で開催情報を見て訪れた」と話す県内外からの来場者も多く、たくさんの方が町の魅力に触れながら楽しんだ一日となりました。



9/14 みんなで仲良く遊んでね 桃色ウサヒパペット贈呈式

あさひ保育園の子どもたちに、朝日町観光協会から桃色ウサヒのパペット人形がプレゼントされました。この人形は同協会が開発し、8 月から販売を開始したもので、今回は各クラスに 1 体ずつ、合計 6 体が贈呈されました。

式では、観光協会の阿部安彦副会長、道の駅あさひまちの加藤拓生駅長、そして桃色ウサヒが園児代表にパペットを手渡し。受け取った子どもたちは「かわいい!」「ふわふわ!」と楽しそうに話しながら、早速大事そうに抱えて遊んでいました。



インバウンド推進員の陳昱睿です。地域おこし協力隊として朝日町に着任してから、早いもので3年目を迎えました。普段は、台湾の方に向けたSNSの運営や朝日町の情報発信をはじめ、台湾から訪れる観光客の町内案内、海外向け事業での通訳など、インバウンドに関わるさまざまな業務を担当しています。また、町内で行われる祭りやイベントにも参加・協力し、自分自身が実際に見て、感じた朝日町の魅力を台湾の皆さんに届けることを大切にしています。



町地域おこし協力隊と桃色ウサビの「中の人」こと、佐藤恒平情報交流総合アドバイザーによる連載コーナー。日々の活動や朝日町での暮らしを語ります。



大谷風神祭（8月31日）では、「お神楽」を支える一人として参加しました

地域おこし協力隊、3年目を迎えて

インバウンド推進員 ^{ちん いくえい} 陳 昱睿（台湾出身）

今年も、大谷地区の「風神祭」に参加させていただきました。本番のにぎやかさはもちろんですが、地域の皆さんと一緒に練習した時間や、本番に向けて準備を重ねた日々も、今では大切な思い出です。外から朝日町にきた私にとって、地域の皆さんと一緒に伝統行事に参加できたことは、朝日町の温かさを改めて感じる、とても貴重な経験となりました。

協力隊としての任期も、残すところあと半年ほどとなりました。これまでの活動を通して、多くの方々と出会い、さまざまな経験をさせていただき、残りの半年も、町の皆さんとのつながりを大切にしながら、自分だからこそ伝えられる朝日町の魅力を、台湾をはじめとする海外の方々に届けていきたいと思っています。最後まで、どうぞよろしくお願ひいたします。



町立図書館新刊案内



【その他の新刊】

▼暗殺の交響曲／中山七里
▼安恒／今野敏 ▼少年ABCの完璧な選択／結城真一郎 ▼油断！／堺屋太一 ▼誰何／伏見美紀 ▼ギャルにひかれて寺マサル／宮島未奈 ▼黒鳥／横関大 ▼アルゴリズムの査証／海堂尊 ▼弾丸とヒマワリ／箕輪尊文 ▼人にはどれほどの本があるか／鈴木結生 ▼4アウトーある障害者野球チームの挑戦／平山譲 ▼ママがもうこの世界にいない／私と私の命の日記／遠藤和 ▼旬の料理家たちの日々／ごはん／私の献立日記／栄養と料理編 ▼法医学教授が教えている死体の授業／飯野守男 ▼都市のような図書館をつくる／馬場正尊 ほか

▼「わたしの知らない子どもたち」
西川 美和 著
palmbooks
音楽家の父のもとピアノに親しんで育った私は、戦争で全てを失い、生きるために自分を偽ることを選んだ。戦渦を生きたひとたちが奏でる長篇。2026年10月公開映画の原案小説。

▼「せっかく作るなら、一生ものの、おいしいお菓子」
小嶋ルミ 著
KADOKAWA
確かな基本をマスターしたい人へ！お菓子界のレジェンド・小嶋ルミ氏が、初心者こそ伝えたいお菓子作りの基本を徹底的に教えます。レシピ同様に仕上りを左右する「混ぜ方」を丁寧に解説します。

▼「小学生のお料理ブック」
新谷 友里江 著
家の光協会
第13回料理レシピ本大賞 in Japan
12月の本賞受賞作



【ブックテーマコーナー】
秋の夜長は親子で読書を！



町で活動する県外の民間人材が、自身の活動や町民の皆さんへの呼びかけなどを掲載します。

【今月の担当】株式会社 アール・エ北陸



令和8年
11月1日
試験運用開始

あさひまち 環境ポイント

世帯ごとに
取り組みましょう！

このポイント制度はなぜ始まったの？

近年、地球温暖化の影響により気候変動が加速し、平均気温の上昇や豪雨災害など、私たちの暮らしや自然環境にさまざまな影響が出ています。

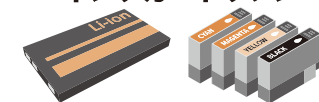
「あさひまち環境ポイント」は、環境にやさしい取り組みや二酸化炭素（CO₂）排出を減らし地球温暖化を抑えることにつながる取り組みを実施することで、**町民のみなさん一人ひとりに日常生活で無理なく、楽しくCO₂の排出削減に取り組んでいただくことを目的に実施します。**



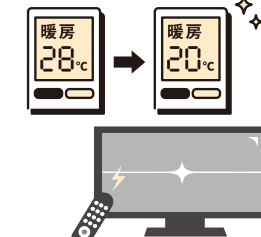
では、環境にやさしい取り組みやCO₂排出を減らす取り組みとはどんなことでしょうか？

例えば...

資源ごみの拠点回収
リチウムイオンバッテリー
インクカートリッジ



ごみを分別し、
リサイクルする



省エネに取り組む



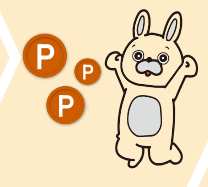
食品ロス削減に取り組む

「あさひまち環境ポイント」でできること

環境活動を
知る・参加する



ポイントをためる



特典と交換する



※イメージです

ポイントカードはR8年10月30日に町内各戸への配布を予定しています。
ポイントの点数・特典などの詳細は、ポイントカードと同日に配布するチラシでお知らせします。

あさひまち環境ポイント制度についてご不明な点があれば、お気軽にお問合せください。

（お問い合わせ）総務課危機管理対策室 危機管理環境係 ☎ 0237-67-2111 ✉ bousai@town.asahi.yamagata.jp

戸籍のまど

Asahi town

9月1日～9月30日届出

Births

すこやかに

区名	出生児氏名	性別	保護者名
真中	遠藤 美愛	女	潤人・美穂
大町	阿部 星玖	男	将也・菜々美

Obituaries

やすらかに

区名	死亡者氏名	世帯主名
真中	堀 庄市	俊 一
大谷第五	高 取 照子	綾 平
大谷第一	白 田 茂	和 宏
元町	長岡 和美	和 浩
大谷第五	長岡 ユキ子	好 男

Population

人口と世帯数

●令和8年 9月30日 現在 ※()内は先月比

人口	5,513 人 (+ 1)
男	2,764 人 (± 0)
女	2,749 人 (+ 1)
世帯数	2,260 世帯 (± 0)

----- 9月中の異動 -----

出生	2人	転入	13人
死亡	8人	転出	6人

(※外国人を含む)



子育てママを応援！ お役立ち情報をお届けします

【令和8年度 第7回】

今月の担当 … 佐竹 律 こども家庭センター統括支援員



ママと赤ちゃんの
産後ケアサポート

出産・育児に日々向き合っているお母さん。落ち込んだり、自分を責めたり、逃げ出したくなったり…。頑張っているのに、頑張りがちです。

産後は身体が出産前の状態に戻ろうとするため、心身ともに不安定になることがあります。体調が安定しない中で子育てがスタートし、睡眠不足や育児の不安、疲れなどから、お母さんの心身は不安定になりがちです。

そんな時はぜひ、産後ケアを利用し、お母さんが自信をもってラクに子育てができる方法を一緒に探してみませんか。

○朝日町産後ケア事業者

- まちなか助産院
(朝日町大字宮宿 102114)
- 国井クリニック
(寒河江市大字中郷 14501)
- 山形済生病院
(山形市沖町 79-1)

ママの家事・育児をサポート！
(子育て世帯訪問支援事業)

町でも核家族化などにより、家事や育児に不安や負担を抱えている方が多くなっています。産後や体調不良の時、子育てに困ったことはありませんか？

「買物に行けない」「夫が出張で一人で子どもをお風呂に入れない」。そんな時に町でサポートできるよう、子育て世帯訪問支援事業を実施しています。この事業は、ヘルパーさんから育児や家事を手伝ってもらえるものです。

育児中で「誰かの助けがほしい」と感じている方に、寄り添ったサポートを提供します。

産後ケア事業・子育て世帯訪問支援事業の申し込み・お問合せは左記までお願いします。

▼健康福祉課 こども家庭センター
☎ 84-7755



大谷地区で 「地域食堂」開催

10月2日、大谷第五区公民館を会場に、地域食堂「地域だんらんさんきゅう食堂」が開催されました。

発起人は、大谷にあるカフェ「縁 joy コーヒー」のオーナーでもある渡辺恵美子さん（大谷第五）。「核家族世帯や高齢者の一人暮らし世帯が増え、一人でご飯を食べている人も多い。そういう人たちのだんらんの場を、どうにか作れないか」と考えたのが開催の背景だと語ります。

当日は子どもから高齢者まで、幅広い世代の20人が参加。渡辺さんの友人ら8人のスタッフが調理したカレーなどのメニューを、みんなで顔を合わせてにぎやかにいただきました。

今回は11月7日（土）に実施されます。本紙と同日配布の「お知らせ板」に詳細がありますので、そちらもぜひご覧ください。



朝日町の神社と御堂

町全体が博物館 朝日町エコミュージアム

第41回 朝日嶽神社 (鳥原山)

【所在地】朝日連邦の鳥原山山頂の東、鳥原小屋のすぐ脇にある

朝日岳信仰は、白鳳9(680)年、山岳修験者の役の小角が大沼を経て朝日山頂を極め、開山したのが始まりと伝えられています。

その後、繁栄と衰微を繰り返し、江戸時代には湯殿山修験との競争に敗れ衰微していましたが、明治10(1877)年、神職の里見勉と清野正男により鳥原山に無格社朝日嶽神社を復興しました。昭和28(1953)年、宗教法人法により霊山朝日嶽神社を設立登記し、現在に至ります。

例祭は6月の第3日曜日。朝日連峰の山開きを兼ねて、関係する市町の担当者や山岳会会員、一般の登山者も一緒に集い、山の安全を祈願しています。

うさぎのゆると解説

昭和34(1959)年、『伊勢湾台風』と呼ばれる猛烈な風雨の台風で、朝日嶽神社の社殿は壊れてしまったんだ。倒壊した神社の柱や、御神体が祀られている神棚などはそのままになっていたけれど、昭和38(1963)年にできた鳥原小屋に仮安置された。その後、鳥原小屋の隣に神社が再建され、さらに新しくなった社殿が現在の朝日嶽神社なんだって。





今年も大人向けも初開催! ドキドキ探検隊 カヌー体験

9月20日(日)



子どもたちに豊かな心と郷土愛を育んでもらうため、地域の達人たちが、大谷地区を中心に自然体験活動などを行うドキドキ探検隊(鈴木直幸代表)。9月20日、馬神ダム(大谷第二)にて同団体主催のカヌー体験会が行われました。

午前は隊員7人が親子で参加。一人ずつ乗ったり、友達同士や親子で同じカヌーに乗ったりと、達人たちに見守られながらにぎやかに楽しみました。

そして午後からは大人を対象とした「大人のドキドキ探検隊」を初開催。地域からの要望で企画され、町内外から参加した7人がカヌーを満喫。こちらはダムの上流まで進み、豊かな自然を水上からゆったりと楽しみました。

参加者からは、「またやってみたい」との声が多く聞こえ、子どもも大人も笑顔でアクティビティを楽しみ一日となりました。



春夏秋冬 編集後記

健康な体が
あればいい

そして、今号の特集はミズノ株式会社様との連携についてでした。町との連携を長く担当してくださっている川久保さんにインタビューする中で、「運動は自分への投資」という言葉にハッとさせられました。これまで自分の中には運動する習慣が全くありませんでしたが、どうせ生きるなら健康的に過ごしたいですね。軽い運動でも続けられるものを、ミズノさんとの共同事業を取材する中で、自分も見つけられればと思います。

白田 一暉

今号の表紙は楳平の棚田。「そろそろ稲刈りも始まっているよ」と聞き、急いで撮りに行かねば!と撮影したものでした。広報担当になって以来、定期的に棚田の写真を撮りに行っていますが、そこで「町外から見に来たんだ」という方と出会うことがとても多いです。それはとてもうれしいことですし、そうした方々にもっと町の素敵などところを見て回ってもらえるよう、この広報紙でもどんどん町の魅力を伝えていきたいと思っています。カメラの腕を上げることも含め、いろいろと頑張ります。

